



振動応用技術で、世界をひらく

コンクリートカッターシリーズ コンクリートカッター 取扱説明書



ERC14DC・ERC16DSC・ERC18DSC

★お買い上げありがとうございます。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

エクセン株式会社

☆ 安全情報

- ☆ この製品は路面補修やガス・上下水道・ケーブルなどの配管工事でのコンクリートやアスファルトの切断、コンクリート舗装道路新設時における目地の切断などに使用する機械です。この目的以外には使用しないでください。
- ☆ 製品の安全性については十分に配慮していますが、この説明書の危険、警告、注意をよくお読みいただき正しくお使いください。
- ☆ この製品を第三者へ貸し出す場合は製品の安全性について十分に説明し、取扱説明書も同時に貸し出してください。
- ☆ 下記の表示は万一にも他人や自分に障害や損害を与えることのないように、この製品を使用していただくための危険表示・警告表示・注意表示です。

	危険 (DANGER)	【危険】は、死亡または重傷を負う可能性のある切迫した危険な状況を示す表示
	警告 (WARNING)	【警告】は、死亡または重傷を負う可能性のある危険な状況を示す表示
	注意 (CAUTION)	【注意】は、軽傷または中程度の障害を負う可能性のある危険な状況を示す表示

- ☆ エンジンは、（社）日本陸用内燃機関協会の自主規制適合エンジンを搭載しています。



(死亡事故を受けないために)

⚠ 燃料給油時は必ずエンジンを停止してください。エンジンが十分冷えてから行ってください。こぼれた燃料はふき取ってください。引火する恐れがあります。

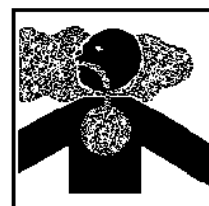
⚠ 燃料の給油は屋外の火気がない場所で行ってください。引火する恐れがあります。



(死亡事故を受けないために)

⚠ この製品は気密性の高い場所や換気の悪い場所では使用しないでください。

排気ガス中毒や酸欠状態になり死亡する恐れがあります。



⚠ エンジンの燃料タンクに燃料が入った状態で、自動車の荷台などに載せて運ばないでください。燃料がこぼれて火災になる恐れがあります。

⚠ 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってください。火災になる恐れがあります。

⚠ この製品には乗らないでください。

⚠ 本製品は、雰囲気温度 20℃ でアルミケース部が 70℃、マフラー部が 230℃ になります。接触するとやけどします。当社での測定温度ですので、周囲環境によっては測定値と異なる場合があります。エンジンの取り扱いには十分注意してください。



⚠ 燃料は無鉛ガソリンを使用してください。他の燃料を使用するとエンジン性能の低下、故障、事故の原因になります。

⚠ エンジンの取り扱いは付属のエンジン取扱説明書を熟読してから取り扱ってください。

⚠ ブレードケース、ベルトカバーをはずして運転しないでください。
回転中のブレード、ベルト、プーリに手や身体が触れるとけがをします。



⚠ ブレードケース、ベルトカバーがシャーシに確実に固定されているか確認してから作業を行ってください。取り付け不備があるとけがをします。

⚠ エンジン始動中は本製品の下部にあるブレード軸が回転しています。回転しているブレード軸に触れたり、工具などを絶対に近づけたりしないでください。けがをします。

⚠ 回転中のブレードに足や身体を触れないようにしてください。
けがをします。

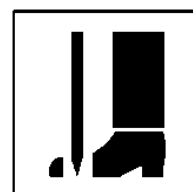


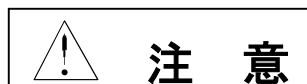
⚠ 本製品は可能な限り回転部に指や手、足、身体が入らないように設計しましたが、ブレードケースとブレードの間、ベルトカバーとベルトカバー裏板の間に隙間が空いています。
手や指、足、身体を入れないでください。

⚠ 本製品の修理を行う場合は、修理の技能を有する者が行ってください。作業者は絶対に分解しないでください。

⚠ 本製品の特性（回転速度、ブレードの径など）改造は、絶対にしないでください。

⚠ エンジンを始動させる場合は、ブレードも同時に回転しますので、
ブレードに手や足を近づけないでください。回転するブレードに接触してけがをします。





(障害や損害を受けないために)

- ⚠ バッテリーを扱う場合は十分に注意してください。バッテリー液には希硫酸が含まれています。目に入ると失明、皮膚に触れるとやけどをする恐れがあります。

(ERC16DSC・18DSC型)

- ⚠ この製品を運転中や停止直後にエンジン、特にマフラーなどの発熱部には絶対触れないでください。やけどします。



- ⚠ この製品を斜面での作業に使用しないでください。
暴走・転倒・横滑りをする恐れがあります。

- ⚠ この製品に最大ブレードを取り付けた際のブレード最高使用周速度は、下表に設定しています。設定されたエンジンの回転数以上に上げないでください。ブレードチップが破損し飛び散って、けがをする恐れがあります。

■ ブレード最高周速度

型 式	最高周速度 [m/min]
ERC14DC	3, 170
ERC16DSC	3, 530
ERC18DSC	3, 960

■ エンジン設定回転数

型 式	設定回転数 [min ⁻¹]
ERC14DC	3, 550～3, 600
ERC16DSC	3, 550～3, 600
ERC18DSC	3, 550～3, 600

- ⚠ コンクリートカッターに取りつける工具は、コンクリートカッター用のダイヤモンドブレードを使用してください。メタルソーや丸のこなどは絶対に使用しないでください。

- ⚠️ コンクリートカッター用のダイヤモンドブレードの穴径はφ 27 mmを使用してください。φ 27 mm以外の穴径のダイヤモンドブレードは絶対に使用しないでください。
- ⚠️ ブレードは1枚で使用してください。
- ⚠️ 安全のため傷ついたブレードは使用しないでください。また、ブレードに付属の取扱説明書を熟読してから使用してください。
- ⚠️ スプラッシュシートに破れ、破損がある場合は交換してください。
破損したまま使用すると、けがをする恐れがあります。
- ⚠️ ブレードの取り付け、取りはずしが終了したら、付属のスパナ2本をタンクハウス右側に戻してください。ブレード軸にスパナを付けたままエンジンを始動するとスパナの破損、本体破損、ブレード軸破損、Vベルト磨耗が起こります。
- ⚠️ 本製品の音響パワーレベル、音圧レベルは下表になります。当社での切断試験ですので周囲環境によっては測定値と異なる場合があります。作業時は聴覚保護具を着用してください。

[dB]

測定条件	型 式	測定値	
		音響パワーレベル	音圧レベル
無負荷運転時	ERC 14 DC	98	86.3
	ERC 16 DSC	98	86.8
	ERC 18 DSC	99	89.1
切断時 (切断深さ 30 mm)	ERC 14 DC	112	93.8
	ERC 16 DSC	111	91.6
	ERC 18 DSC	114	94.6

※ 音圧レベルは作業者の位置における測定値です。

○ ま え が き

このたびはコンクリートカッターをお買い上げいただきありがとうございます。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、エンジンに関する取り扱いについてはエンジンの取扱説明書をお読みください。

この製品の性能を十分に理解して適切な取り扱いと点検整備を行い、いつまでも安全に効率よく使用されるようお願いいたします。なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

本書の仕様は改良などのため、予告なく変更されることがあります。

も く じ

☆ 安 全 情 報	1
○ ま え が き	6
○ 安 全	8
○ 各部の名称	1 4
○ 注意ラベル一覧	1 6
○ 操作上の説明	1 8
○ ブレード取り付け方法	2 5
○ 昇降軸の固定方法	2 6
○ 駐車ブレーキの使用方法	2 7
○ 吊り方法	2 8
○ 使用後の清掃	2 9
○ 点 検	3 0
○ Vベルト調整	3 1
○ オイル交換・点検方法	3 2
○ 消耗部品の交換時期	3 5
○ 故障診断	3 5
○ 仕様・製品寸法	3 6
○ ブレード	3 8
○ ブレード寸法図	3 8

○ 安 全



(作業上身を守るために)

- 作業する場合は安全帽・安全手袋・安全靴・顔面保護具（保護メガネ・マスク）および聴覚保護具を着けて、安全な装備で行ってください。



安全帽着用



安全手袋着用



安全靴着用

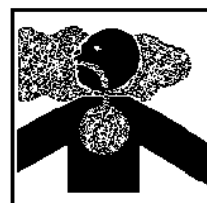


顔面保護具着用



聴覚保護具着用

- 作業中、作業員以外の人を本体の周り（半径2.5m以内）には絶対に近づけないでください。切断物のキリコなどが飛んできて、思わぬけがをする恐れがあります。
- 作業中、本体の周りに燃えやすいもの（おが屑・紙屑および木屑など）や危険物（油脂類・石油類など）を近づけないでください。
- 本体の吊り上げ、吊り下げは、吊具を使用してください。また、吊り上げた本機の下には入らないでください。
- この製品は気密性の高い場所や換気の悪い場所では使用しないでください。
排気ガス中毒になります。

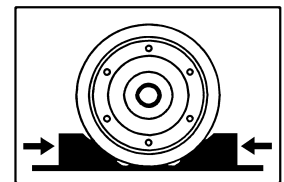


- 作業区域外で本機の移動はエンジンを停止させ、ブレードの回転を止めてから行ってください。
- エンジン始動時にリコイルを引く場合は、周囲に人や障害物がないことを確認してから始動させてください。
- 走行ハンドルは周囲に人や障害物がないことを確認してから動作させてください。
- 走行ハンドルの動作時にタンクハウスと走行ハンドルの間、水タンクと走行ハンドルの間に指を挟まないようにしてください。また、スロットルレバーの動作時もレバーとスロットルレバー固定部分との間に指を挟まないように注意してください。けがをします。
- コンクリートカッターの作業は必ず1人で行ってください。
- コンクリートカッターの最大運転質量は、ERC14DCが181kg、ERC16DSCが198kg、ERC18DSCが199kgになります。移動する場合、車輪に足を挟まれると負傷しますので、移動するときには必ず安全靴を着用してください。
- 本体は水平に対して10°の傾斜で転倒はしませんが、使用環境や外力などにより倒れることがありますので注意してください。
- 斜面を走行する場合は、クラッチレバーを“入”にして走行ハンドルで走行してください。暴走しないよう十分注意してください。
- 本体を積み込み、積み降ろしおよび運搬する場合はブレードを取りはずしてください。
- この製品は重量物ですので手で持ち上げないでください。けがをする恐れがあります。
- 保管・休憩などで停車する場合は、斜面には止めないでください。

○ 本体の水タンクの中には、水以外の物質は絶対に入れないでください。

○ 車で運搬する場合は、ブレードをはずして本体が動かないようロープなどで縛り、さらにクラッチを“入”にし、輪止めをして固定してください。

※ “クラッチ”は、ブレーキではありません。輪止めをしてください。



○ 作業をする場合は、作業に適した服装で行ってください。コンクリートカッターには回転部分がありますので、袖や裾の長い着衣やネックレスなどのアクセサリは身につけないでください。また、長い髪の毛は安全帽やその他の手段でまとめて巻き込まれないような状態で作業を行ってください。

○ 作業をする場合は、走行ハンドルをしっかりと固定してください。走行ハンドルの固定はタンクハウスの走行ハンドル挿入部に取りついてある各2箇所の蝶ボルトを締め付けてください。走行ハンドルが確実に固定されているか再確認してから作業を行ってください。

○ 切削作業中に路面に長い紐やロープがあると巻き込むことがありますので、作業を始める前に切削する路面を清掃して、障害物を取り除いてから作業を行ってください。

○ 切削作業中に切削物が飛散することがありますので、作業時には安全メガネ、安全帽、安全靴などの安全保護具を使用して作業を行ってください。

○ 本体の前部に取り付けられている切削部を指示するガイドアームは、固定しているナットが緩んでいるとガイドアームが前方に倒れてきますので、作業前にガイドアームの作動状況を確認してから作業してください。



(バッテリー点検時に身を守るために)

⚠ **バッテリーを取り扱う前に必ず付属の「バッテリー取扱説明書」をよくお読みください。**

- バッテリーを扱う場合は、長袖シャツ・保護メガネ・安全手袋を着けて行ってください。
(ERC16DSC・18DSC型)
- バッテリー液が目に入ったり、皮膚に触れたりしたら、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。(ERC16DSC・18DSC型)



保護メガネ着用



安全手袋着用

注 意

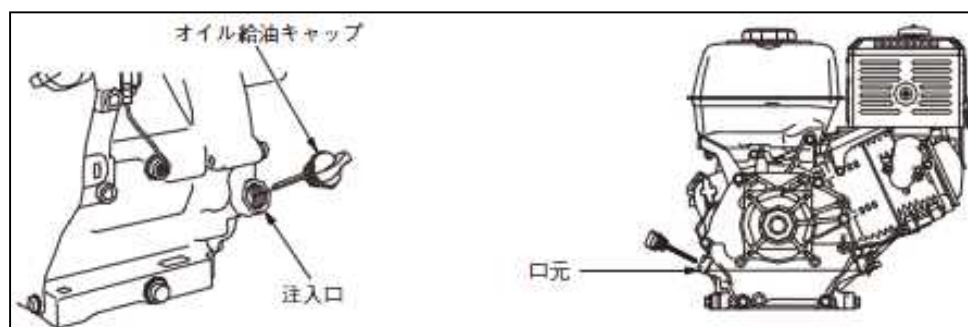
(末永く使用していただくために)

- この製品のエンジンを始動する前に必ずオイル給油キャップをはずし、オイル量を点検してください。オイルが不足・劣化していると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。

オイルの交換時期、オイル量を守ってください。

型 式	オイル量
ERC14DC	0.6 L
ERC16DSC	1.1 L
ERC18DSC	1.1 L

※ オイルの点検および交換方法は、エンジンの取扱説明書を参照してください。



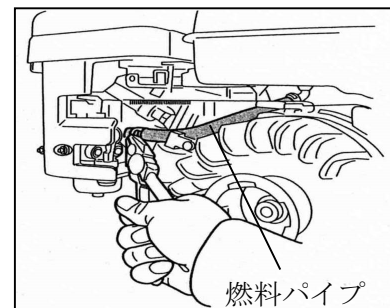
○ オイル量の点検は、エンジンが傾斜していると油量の確認ができないため水平にして行ってください。

○ オイル量の点検はオイルが冷えている状態、またはエンジン停止後5分ほどしてから行ってください。

○ バッテリーを本体からはずし再度取り付ける場合は、バッテリーの+と-を間違えないでください。故障の原因になります。（ERC16DSC・18DSC型）

○ 雨の日は屋外で使用しないでください。

○ 点検時、燃料漏れなどがある場合はすぐ交換してください。



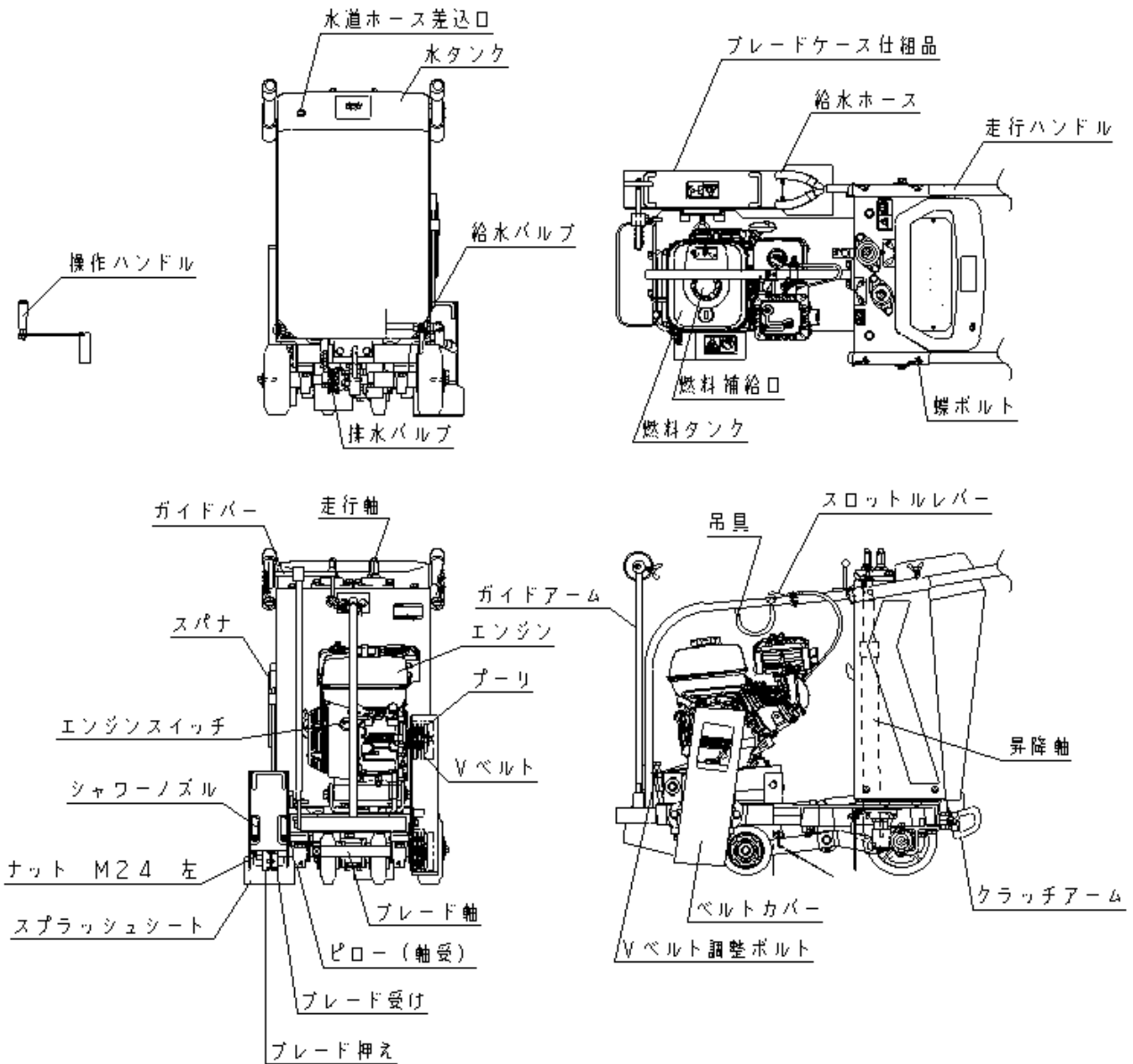
○ エンジンの燃料パイプは使用頻度にかかわらず、2年で交換してください。点検時、燃料漏れなどがある場合はすぐ交換してください。

○ 各ボルト、ナットなどが緩んでいないか確認してください。緩んでいたら増し締めしてください。

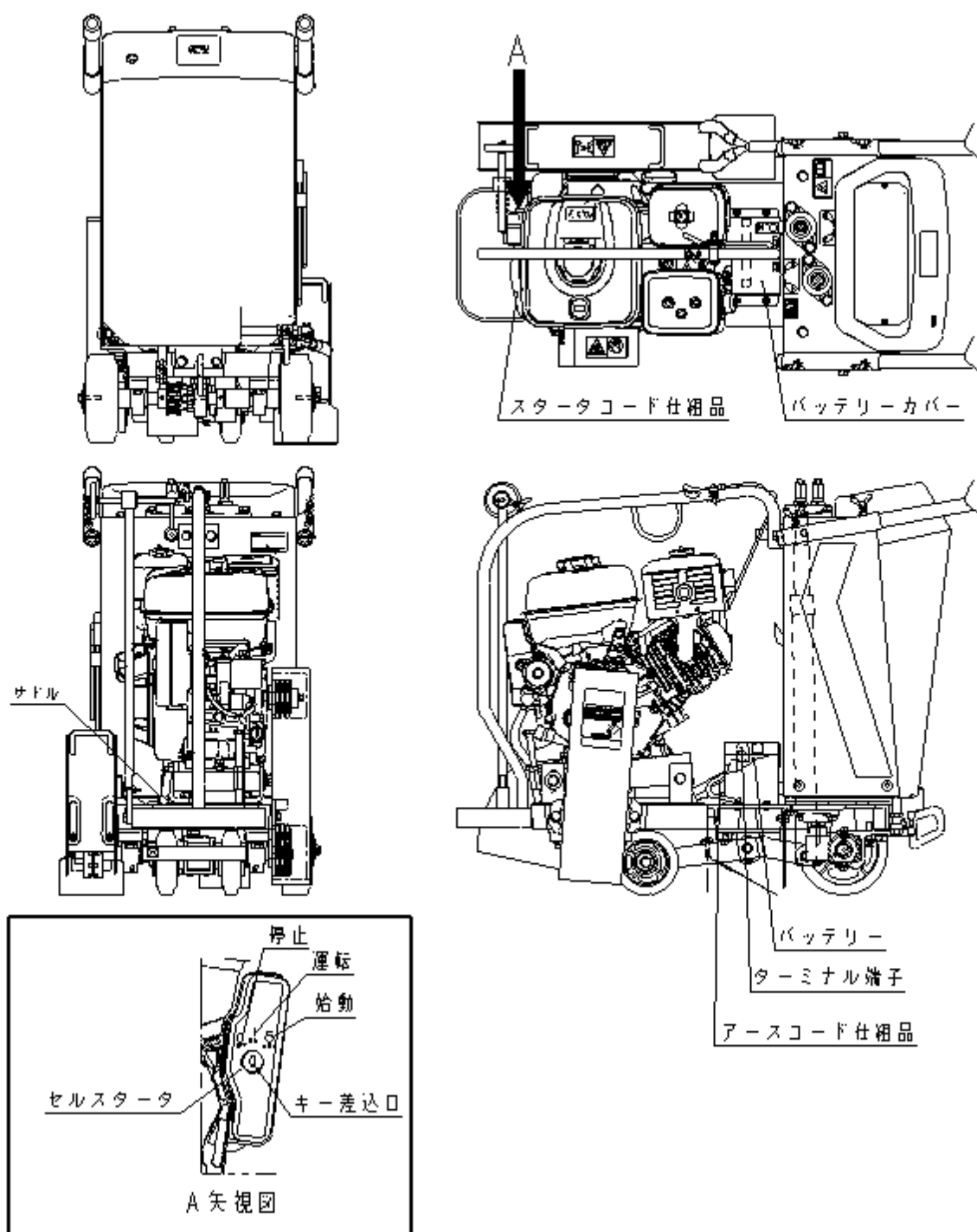
○ エンジンを保守・点検する場合は付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

○ 各部の名称

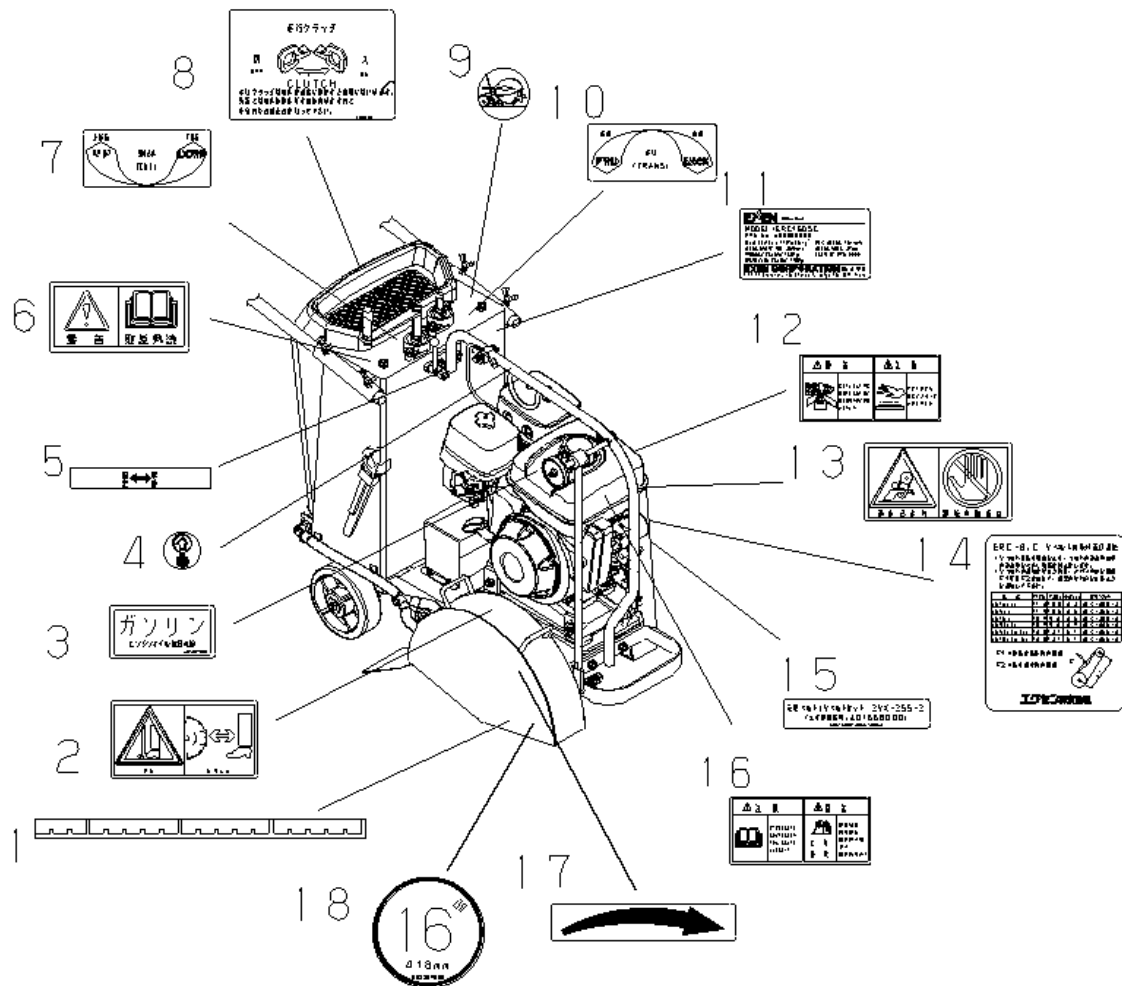
■ERC14DC型



■ERC16DSC・18DSC型



○ 注意ラベル一覧



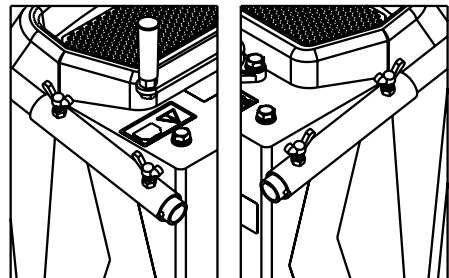
番号	名 称	説 明
1	ラベル スケール	切断深さの指示
2	ラベル 警告 ブレード	切断注意の指示 接近注意の指示
3	ラベル ガソリン	ガソリン使用の指示
4	ラベル 吊り下げ位置	吊る位置の指示
5	ラベル 昇降ストッパー	昇降ストッパーの固定と解除の指示
6	ラベル 警告・取説	取説熟読の指示 警告の指示
7	ラベル 昇降	本体の昇降を行う指示
8	ラベル クラッチ	走行クラッチの入切の指示
9	ラベル 移動時ブレード停止	作業区域外での本体の移動はエンジンを停止させ、ブレードの回転を止めてから行うことの指示
1 0	ラベル 前後進	走行軸の回転方向と前後進の指示
1 1	ラベル ネームプレート	本体の仕様の指示
1 2	ラベル エンジン付属	排ガス注意の指示 やけど注意の指示
1 3	ラベル 警告 Vベルト	巻き込まれ注意の指示 運転中触るなという指示
1 4	ラベル Vベルト調整	ベルト交換した際の張り調整の指示
1 5	ラベル Vベルト	交換ベルトの指示
1 6	ラベル エンジン付属	火気厳禁の指示 エンジン取説熟読の指示
1 7	ラベル ブレード回転方向	ブレードの回転方向の指示
1 8	ラベル ブレード	本体に取り付け可能な最大ブレードの指示

○ 操作上の説明

⚠ この製品を使用する場合は、気密性の高い場所や換気の悪い場所では使用しないでください。また、取り扱いには十分気を付けて作業を行ってください。

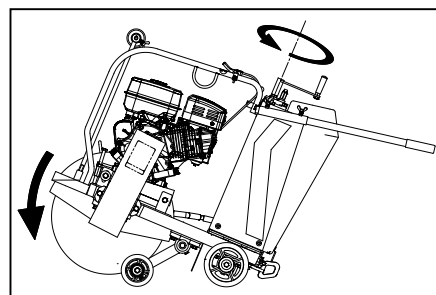
1. 運転前 ブレード交換から切断準備まで

1. 昇降軸に操作ハンドルをセットし右に回してブレードが取り付けられる高さまで上げてください。
2. 蝶ボルトを緩めてブレードケースをはずしてください。
3. 付属のスパナを使用しブレード軸にスパナ 24 mm、ナット (M24 左) にスパナ 36 mm を使用してナット (M24 左) をはずし、ブレード押えをはずしてください。
4. ブレードをブレード軸に取り付けてブレード押え・ナットで固定してください。
※ 「ブレード取り付け方法」 (25 ページ) を参照ください。
5. ブレードケースを取り付け、蝶ボルトでシャーシに確実に固定してください。
6. 水タンクに水を満タンにしてください。
※ タンク給水の際はタンク下の給水バルブ・排水バルブのコックを閉めてください。
7. 使用前に給水コックを開き、シャワーノズルが目詰りしていないか確認してください。
※ 長時間切断作業を行う場合は水タンクの水の量では不足します。そのときは水道から直接水道ホースを差込口に入れて給水してください。
8. 走行ハンドルを適当な位置に調整し、2 本の蝶ボルトでしっかり固定してください。
※ 確実に固定されているか再確認してください。

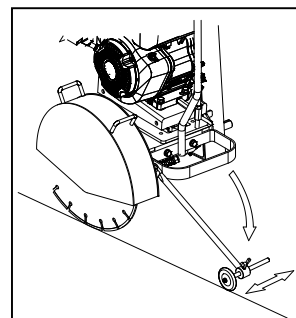


9. 切断作業を行う位置まで本機を移動してください。

10. 操作ハンドルを左に回し、ブレードを路面から4～5 c m離れた位置に調整してください。



11. ブレードが切断線に沿って走行するように、ガイドバーを降ろして本機の位置決めを行ってください。

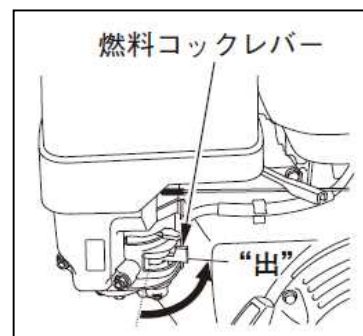


12. クラッチアームを右に倒し、クラッチを“入”にします。

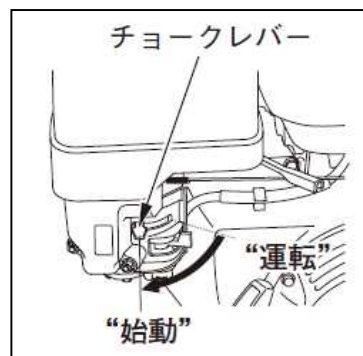
※ クラッチの入りがスムーズにいかない場合は、操作ハンドルを走行軸にセットしゆっくり回しながらクラッチを入れてください。

2. 運 転 エンジン始動から切断開始まで

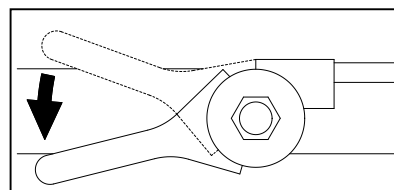
1. 燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。



2. 寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを“始動”の位置に合わせます。
※ エンジンが暖まっているときは操作不要です。

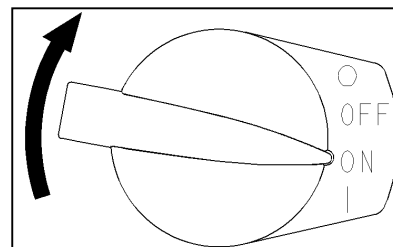


3. スロットルレバーを低速から高速の方向に約 1 / 3 開いた状態にします。



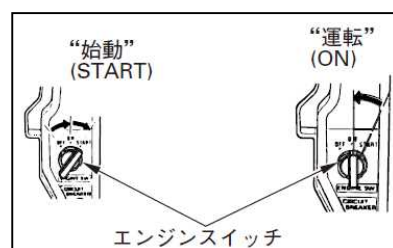
■ERC14Cの場合

4. エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置にしてください。（ERC16・18DSCを除く）



■ERC16DSC・18DSCの場合

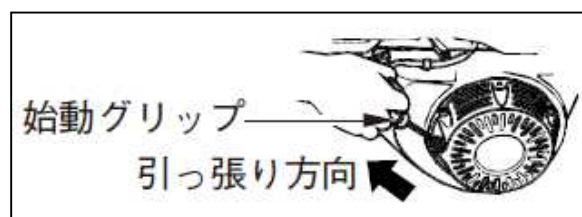
4. エンジンスイッチを“START”（始動）の位置まで回しエンジンを始動します。
エンジンが始動したら、エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置に戻します。



※ セルスタータを回して5秒以内にエンジンが始動しない場合は、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

※ セルスタータで始動できない場合は、エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置にしてリコイルを使用して始動してください。下記（5）を参照してください。

5. 作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなる所で止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
（ERC16・18DSCを除く）

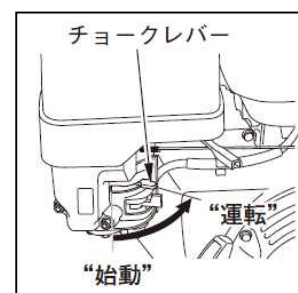


※ 始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。

※ 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

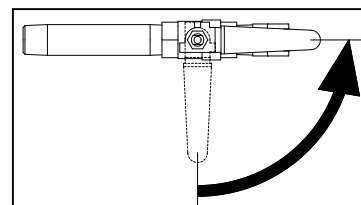
6. 始動
2～3分間暖機運転を行ってください。

7. チョークレバーを“始動”にした際、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。

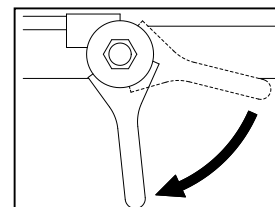


8. エンジン始動後、負荷をかけずに1～2分くらい低速側で暖気運転します。
9. エンジンやVベルトなどに異音などないことを確認してください。

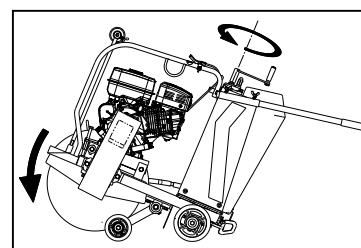
10. 給水バルブのcockを開きます。



11. スロットルレバーを徐々に高速側に操作し、全開にします。



12. 昇降軸に操作ハンドルをセットした状態でゆっくり左に回し、切り込み作業を行ってください。切り込み深さが深い場合は、切断を2～3回に分けて行ってください。操作ハンドル1回転で約7mm切り込みます。



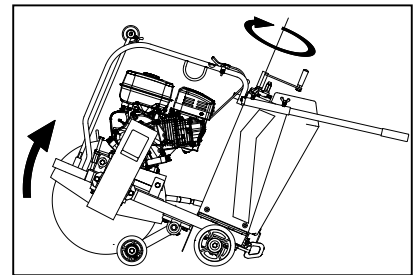
13. 切り込み深さになったら、昇降軸を固定してください。
※「昇降軸の固定方法」（26ページ）を参照ください。

14. 操作ハンドルを走行軸にセットし、走行ハンドルをしっかり握りながら操作ハンドルを左に回して切断走行を行ってください。

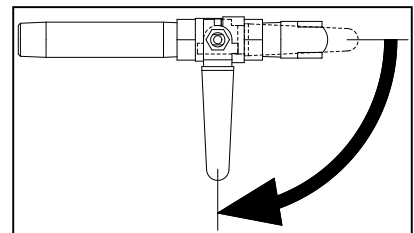
※ 切断速度が速いと過負荷になり、エンジンが停止やVベルトの寿命が著しく短くなりますので注意してください。また、切断作業中に本体の方向を変えたり走行を速めたりして、ブレードに無理な負荷をかけないでください。

3. 停止 切断終了からエンジン停止まで

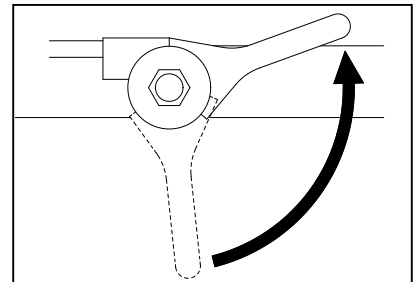
1. 昇降軸の固定を解除します。
2. 操作ハンドルを右に回してブレードを路面から4～5 c m離れる所まで上げてください。



3. 給水バルブのコックを閉じます。

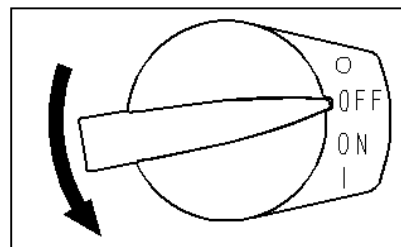


4. スロットルレバーを低速の位置にして、2～3分間運転します。



■ERC14Cの場合

エンジンスイッチを“OFF”（停止）の位置に回します。
（ERC16・18DSCを除く）

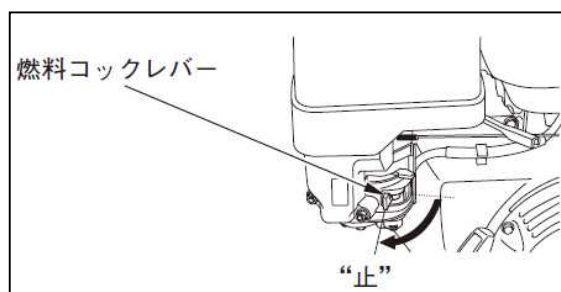


■ERC16DSC・18DSCの場合

5. セルスタータを“OFF”（停止）の位置に回します。
セルスタータからキーを抜いてください。



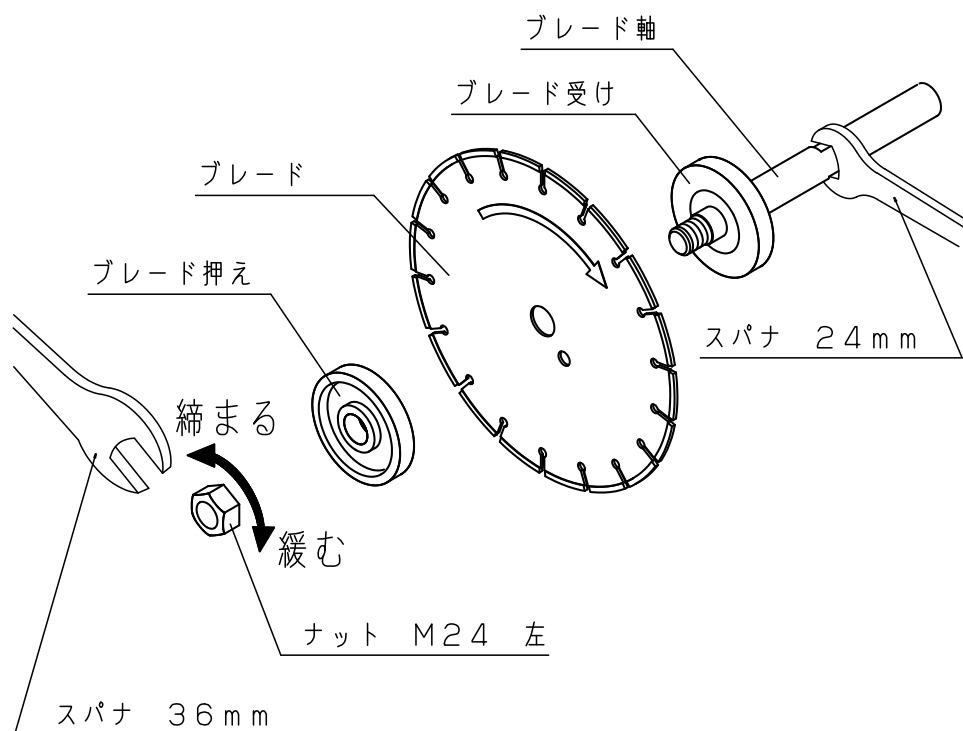
6. 燃料コックレバーを“止”の位置に合わせます。



○ ブレード取り付け方法

⚠ ブレードを交換する場合は、必ずエンジンを停止しスイッチが“OFF”の状態で行ってください。

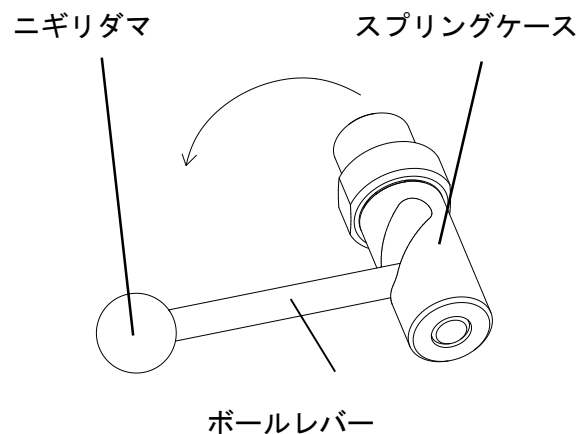
1. ブレードをブレード軸に挿入し、ブレード受けに押し当てます。
※ ブレードを取り付けるときは、ブレードの回転方向とブレード軸の回転方向を合わせてください。
2. ブレード押えをブレード軸に挿入し、ブレードに当てます。
3. ナットM24左をネジ込み、付属のスパナ24mmでブレード軸を押え、スパナ36mmでナットを確実に固定してください。
※ ハンマーでスパナを2～3回叩いて締め付けてください。
※ ブレードがしっかり固定されていることを確認してください。
※ ブレードの取り付け、取りはずしが終了したら付属のスパナ24mm、スパナ36mmは元の場所に戻してください。



○ 昇降軸の固定方法

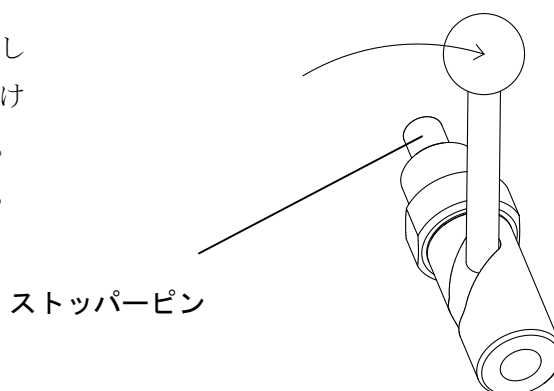
■ ストッパー開放状態

ボールレバーが左いっぱいにある場合は、昇降軸は解放状態です。
(昇降軸が回せます。)



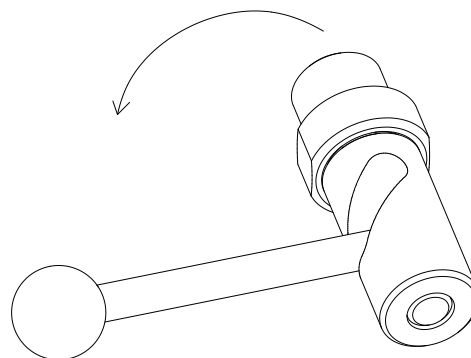
■ ストッパーを固定させる。

1. ボールレバーを右に回しますと内蔵のスプリングでストッパーピンが引き込まれます。
2. 昇降軸に操作ハンドルをセットし少し回すとストッパーピンが昇降軸に設けた穴に入り、昇降軸が固定されます。固定されたことを確認してください。



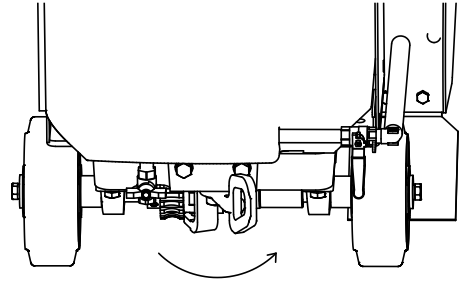
■ ストッパーの固定を解除させる。

ボールレバーを左いっぱいに回しますと昇降軸の固定を解放されます。

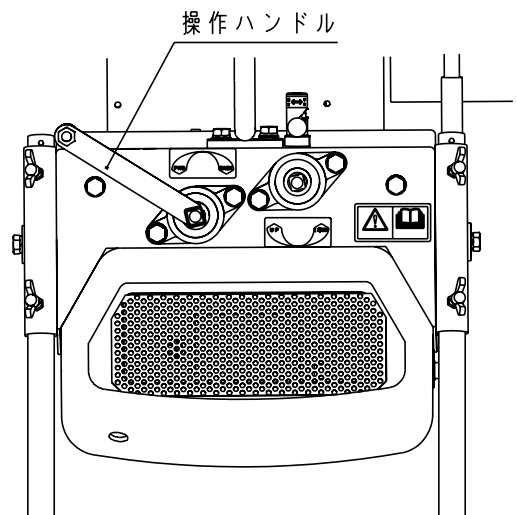


○ 駐車ブレーキの使用法

1. クラッチアームを右に倒し、クラッチを“入”にします。
※ クラッチの入りがスムーズにいかないときは、操作ハンドルを走行軸にセットし、ゆっくり回しながらクラッチを入れてください。



2. 操作ハンドルを右図のように上下反対に走行軸に差し込みます。
操作ハンドルが吊具とタンクハウスの間で固定され走行軸と後車輪は回転できない状態となり、駐車ブレーキとして機能します。

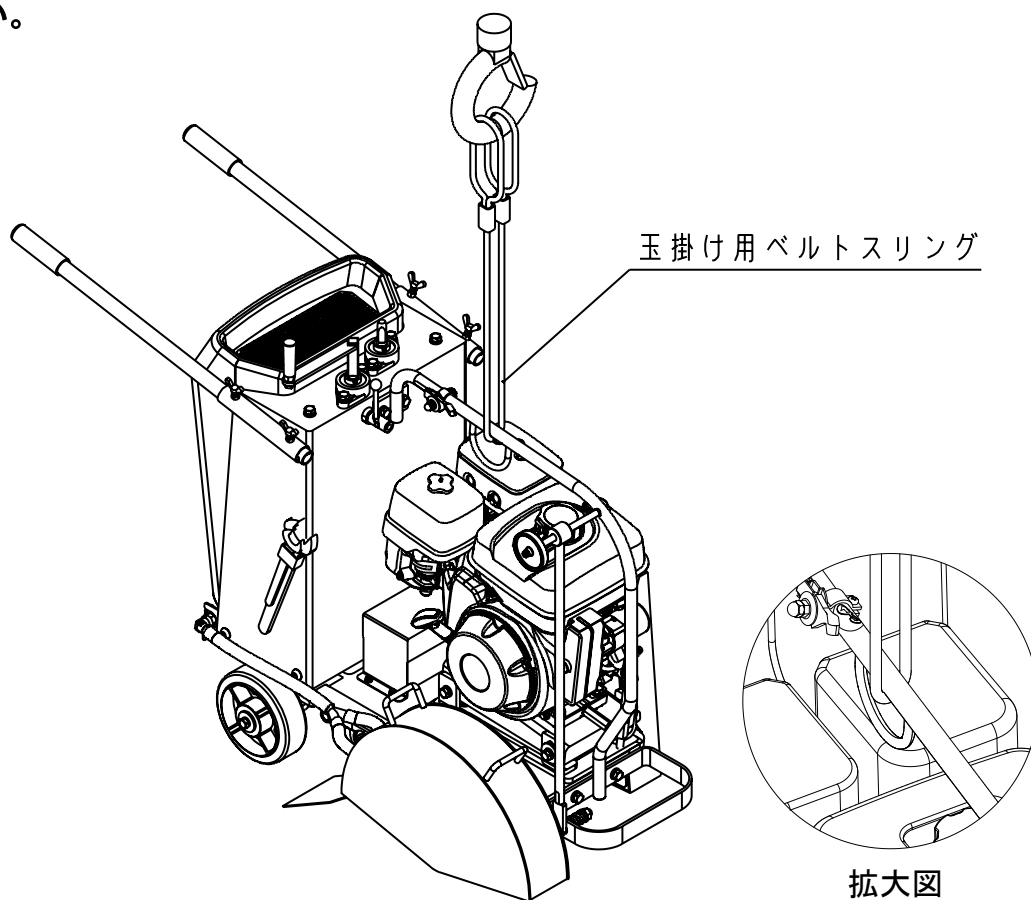


注意

操作ハンドルをはずすと車体が動き出すことがありますので、安全のため車輪止めを行ってください。

○ 吊り方法

- ⚠ 本体を吊り上げ、吊り下げする場合は必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチが“OFF”の状態で行ってください。
- ⚠ クレーンなどを使用して本機を吊り上げ、吊り下げする場合は有資格者が作業を行ってください。
- ⚠ クレーンなどの定格荷重が200kg以上のものを使用し作業を行ってください。



<作業方法>

1. ブレードをはずし、水を抜いて本体を地面と水平になる位置にしてください。
2. 図の位置にベルトスリングをかけて吊り上げ、吊り下げ作業を行ってください。
※ 図の位置以外を吊らないでください。
※ 十分な場所を確保して作業を行ってください。
3. 車載後、本機が動かないようにロープなどで縛り、駐車ブレーキを使用してください。
さらに固定が必要なときは車輪止めをしてください。

○ 使用後の清掃

○ 使用後は必ず清掃してください。

1. ブレード軸の周囲は、スラッジが飛散して汚れていますので必ず清掃してください。
2. シャワーノズルが目詰りしていないか確認して、詰っている場合は清掃してください。
3. ブレード押えおよびブレード受けが汚れていたら清掃してください。
4. 車輪、ピロー部を清掃してください。
ブレード軸ピローには清掃後グリスを充填してください。
5. ブレード軸の左ネジ部には、グリスを塗って錆を防止してください。
6. 走行ギヤー部および昇降ネジ部を点検しグリスが不足の際は塗布してください。
7. エンジンの取り扱いについては、付属のエンジン取扱説明書をお読みください。

○ 点 検

○ 使用前と使用後は必ず次の項目を点検してください。使用中のトラブルをできるだけ少なくするためです。

1. 水タンク内の水は完全に抜いていますか？
2. クラッチアームはスムーズに“入・切”できますか？
3. プーリの固定ボルトは緩んでいませんか？
4. 昇降機構は、操作ハンドルで最上点・最下点までスムーズに動きますか？
5. ベルトに傷・亀裂・摩耗はありませんか？
6. ベルトの張り具合は適切ですか？
※ 「Vベルト調整」（31ページ）を参照してください。
7. ブレード受けとブレード押えは付いていますか？
8. ブレード固定用のナットM2.4左は付いていますか？スムーズに回りますか？
9. 片ロスパナ2.4mmと片ロスパナ3.6mmは付いていますか？
10. ブレード固定用のナットはスムーズに回りますか？
※ ネジ部にグリスを塗って錆を防止してください。
11. 水タンクに水漏れはありませんか？
12. シャワーノズルの目詰りはありますか？
13. 給水バルブに詰りはありますか？
14. 給水ホースの水漏れはありませんか？
15. エンジンオイルは汚れてないですか？
16. エンジンオイル量は適量ですか？
17. 燃料漏れはありませんか？
18. エンジンは始動できますか？
19. 運転音（エンジン音）は正常ですか？
20. エンジンスイッチが“OFF”で停止しますか？
21. バッテリー液はありますか？（ERC16DSC・18DSC型）
22. ターミナル端子の周りは汚れていないですか？（ERC16DSC・18DSC型）
23. ターミナル端子の緩みはないですか？（ERC16DSC・18DSC型）

○ Vベルト調整

⚠ Vベルトの張り具合の調整は必ずエンジンを停止し、キースイッチが“OFF”の状態で行ってください。

⚠ Vベルトの張り具合によりVベルトの寿命や軸受の寿命などに大きく影響を及ぼします。現場へ搬入する前は必ず点検を行ってください。

■ 調整手順

1. ベルトカバーのボルトM10（2本）を緩め、カバーをはずしてください。
2. Vベルトのスパン（t）中央にたわみ荷重（F1，F2）を、Vベルトに垂直に与えてください。

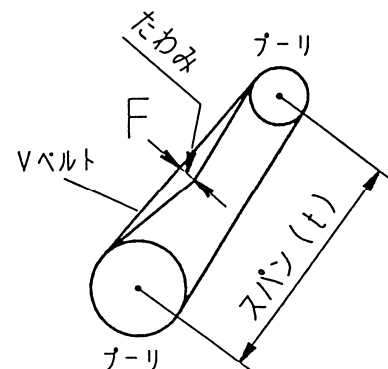
※ たわみ荷重

F1＝新品を張る場合

F2＝張り直す場合

3. VベルトにF1またはF2の荷重を与え、Vベルトが伸びていたらエンジン台締め付けボルトを緩めVベルト調整ボルトで、たわみが下表になるよう調整してください。

型 式	F1 (N)	F2 (N)	たわみ (mm)
ERC14DC	10.7	9.4	4.7
ERC16DSC	13.8	12.1	5.1
ERC18DSC			

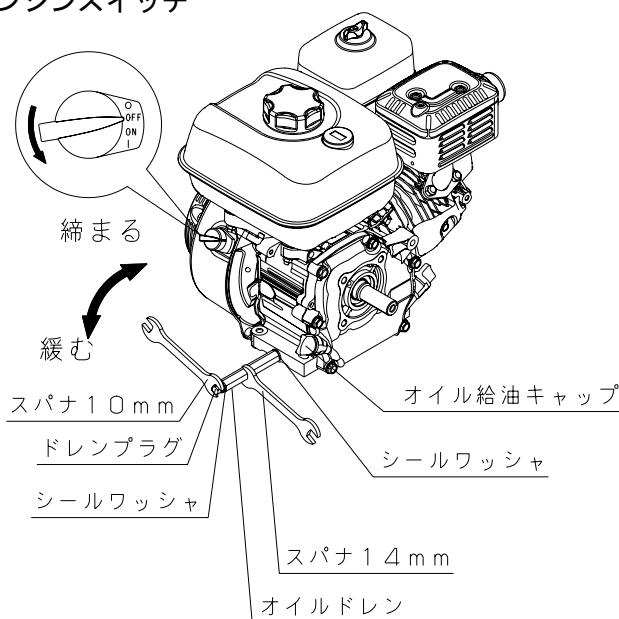


○ オイル交換・点検方法

⚠ オイルを交換する場合は必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチが“OFF”の状態で行ってください。

■ERC14DCの場合

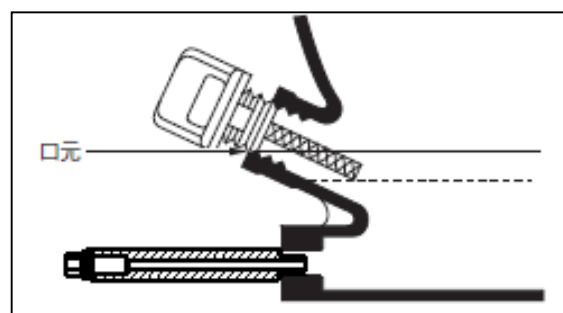
エンジンスイッチ



燃料コック



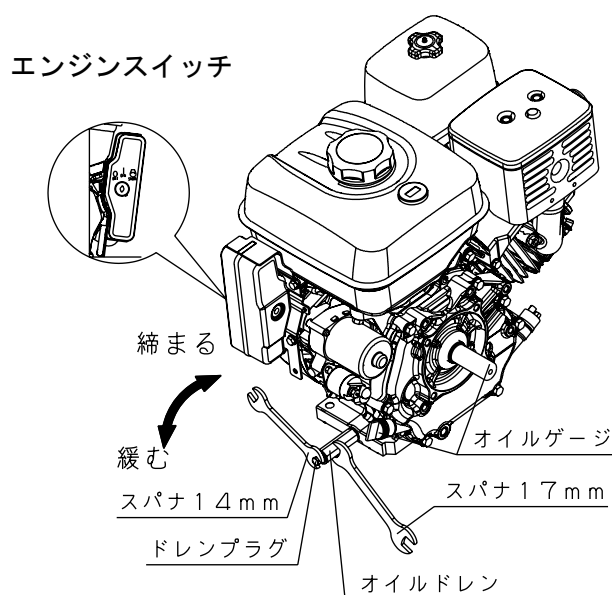
オイル量確認



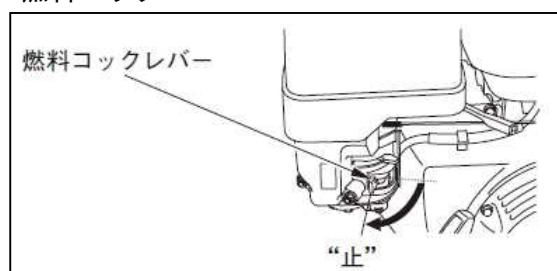
<オイル交換>

1. エンジンを停止し燃料コックを閉め、エンジンが暖まっているときに行ってください。
※ 熱いオイルが身体にかかるとやけどしますので十分に注意してください。
2. オールドレンにスパナ14mm、ドレンプラグにスパナ10mmをかけ、オールドレンが回らないようにドレンプラグをはずしてオイルケースなどにオイルを排出してください。
※ オールドレンが緩むとエンジンとの接続部からオイル漏れの原因になります。
3. オイルを注入する場合は、シールワッシャを間に入れドレンプラグをしっかり締め付けてください。
※ ドレンプラグが締め付けられていないとオイル漏れの原因になります。
4. オイル量はエンジンを水平にし、口元までオイルを入れてください。
5. オイルがエンジンなどに付着していたら綺麗にふき取ってください。
6. 使用オイル、オイル量は次表を参考にしてください。

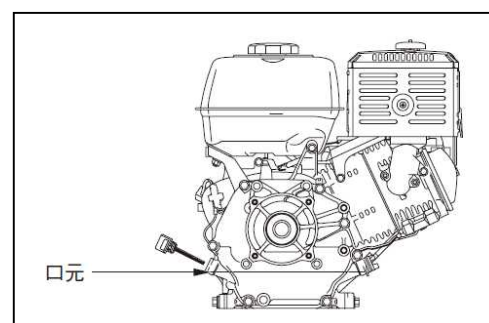
■ERC16・18DSCの場合



燃料コック



オイル量確認



<オイル交換>

1. エンジンを停止し燃料コックを閉め、エンジンが暖まっているときに行ってください。
※ 熱いオイルが身体にかかるとやけどしますので十分に注意してください。
2. オイルドレンにスパナ17mm、ドレンプラグにスパナ14mmをかけ、オイルドレンが回らないようにドレンプラグをはずしてオイルケースなどにオイルを排出してください。
※ オイルドレンが緩むとエンジンとの接続部からオイル漏れの原因になります。
3. オイルを注入する場合は、シールワッシャを間に入れドレンプラグをしっかり締め付けてください。
※ ドレンプラグが締め付けられていないとオイル漏れの原因になります。
4. オイル量はエンジンを水平にし、口元までオイルを入れてください。
5. オイルがエンジンなどに付着していたら綺麗にふき取ってください。
6. 使用オイル、オイル量は次表を参考にしてください。

＜オイル量点検＞

1. オイルの点検は、エンジン始動前に必ず行ってください。
2. エンジンを水平にし、オイル給油キャップをはずし注入口の口元までオイルがあるか確認してください。
3. 不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。

＜使用オイル・規定オイル量＞

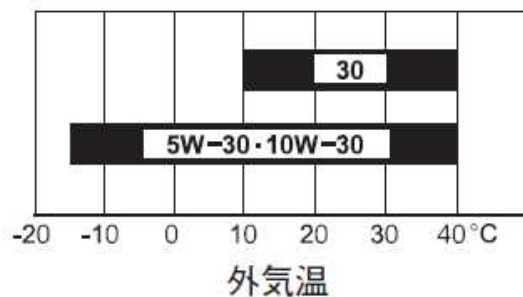
機 種	エンジン型式	オイル量
ERC14DC	GX200T2 SHJE	約0.6 L
ERC16DSC	GX270T2 SHEE	約1.1 L
ERC18DSC	GX270T2 SHEE	約1.1 L

＜オイル交換時期＞

初回：1ヶ月、または20時間どちらか早いほうで実施

2回目以降：6ヵ月、または100時間毎に実施

＜使用オイル＞



- ・ホンダ純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）または、API 分類SE級以上のSAE 10W-30オイルを使用ください。
- ・外気温度が－20℃以下および40℃以上の際は現地に適合した粘度、品質のものを使用。

☆ エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪いものを使用するとエンジンの摺動部や回転部の寿命を著しく縮めたり、焼き付きのトラブルを招きます。常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意してください。

☆ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。
オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令にしたがい適正に処理してください。

不明な点は、オイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。

○ 消耗部品の交換時期

○ 消耗部品の交換は次の項目を参考にして確実に行ってください。

消耗部品	視覚による交換時期の判断	処置・交換時期（目安）
Vベルト	傷・亀裂・摩耗のいずれかが確認され次第	交換
オイル	オイルの汚れ・減り具合で判断	初回： 1ヶ月、または20時間どちらか早いほうで実施 2回目以降： 6ヶ月、または100時間毎に実施
燃料パイプ	燃料漏れを確認次第	燃料漏れ確認次第、即交換 使用頻度にかかわらず2年で交換
バッテリー (ERC16DSC型) (ERC18DSC型)	バッテリーの電圧が低下した場合	バッテリーの充電・交換 (型式：YTX9-BS)

※ 消耗部品の交換時期は目安時間です。

使用状況により異なりますので早めの交換をおすすめします。

○ 故障診断

現象	症状	原因	処置
ブレード軸は回転する	異音がする	ピローユニットの軸受不良	交換
ブレード軸が回転しない	エンジンは始動する	ベルト切れ	交換
	エンジンが始動しない	エンジン不良（焼つき）	修理または交換
	エンジンスイッチOFFでエンジンが停止しない	エンジンスイッチ故障	エンジンスイッチ交換

■ Vベルトセット型式

型式	Vベルトセット型式
ERC14DC	3VX-335-3
ERC16DSC	3VX-355-3
ERC18DSC	

※ Vベルトは、必ず3本同時に交換してください。

※ エンジンやバッテリーの保守、点検については、付属の取扱説明書を参照してください。

○ 仕様・製品寸法

■ 仕様

型式	ERC14DC	ERC16DSC	ERC18DSC
本体質量 [kg]	131	148	149
ブレード寸法 [mm]	256～356	256～418	256～469
[inch]	10～14	10～16	10～18
ブレード取付穴 [mm]	27		
切断深さ [mm]	70～120	70～150	70～175
ブレード周速度 (エンジン定格速度時) [m/s]	53	59	66
ブレード軸回転速度 (エンジン定格速度時) [min ⁻¹]	2840	2690	2690
切断深さ調整方法	ハンドルネジ方式		
走行方法	手押し半自走		
ブレード冷却方法	重力注水放射		
水タンク容量 [L]	50		
エンジン	GX200T2 SHJE	GX270T2 SHEE	
形式	空冷4ストローク傾斜型OHVガソリンエンジン		
総排気量 [cm ³]	196	270	
定格速度 [min ⁻¹]	3,600		
連続定格出力 [kW/min ⁻¹]	3.7/3,600	5.1/3,600	
[PS/min ⁻¹]	5.0/3,600	6.9/3,600	
潤滑油量 [L]	0.6	1.1	
潤滑油	ホンダ純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30) またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイル		
燃料タンク容量 [L]	3.1	5.3	
燃料	無鉛ガソリン		
燃料消費率 [g/kW・h]	367		
[g/PS・h]	270		
点火プラグ	BPR6ES (NGK) W20EPR-U (DENSO)		
始動方式	リコイルスタータ	リコイルスタータ/セルスタータ	
乾燥質量 [kg]	16.1	28.3	

■ 3軸合成値

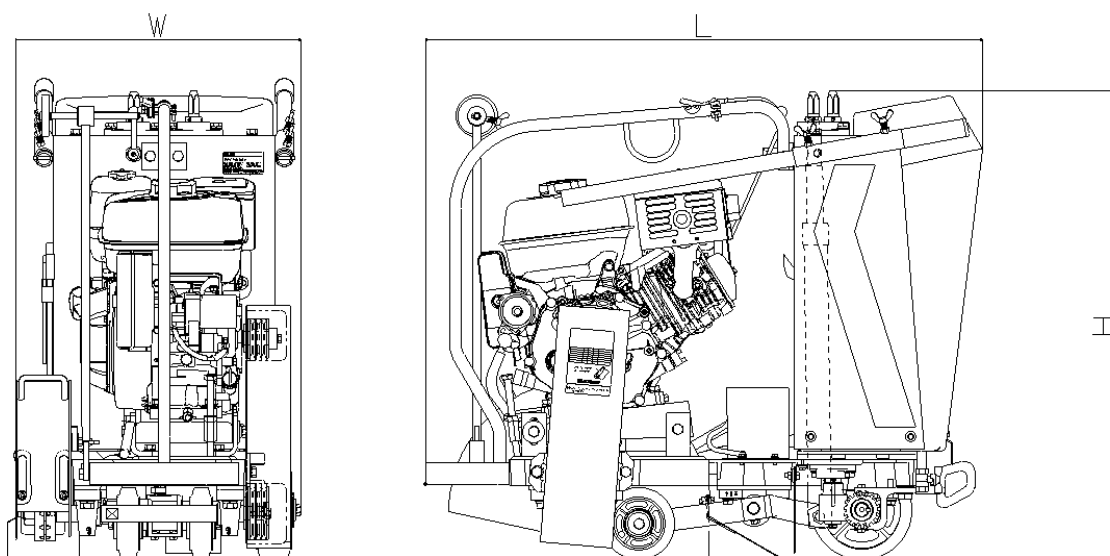
型 式	3軸合成値(m/s^2)
ERC14DC	3.0
ERC16DSC	2.3
ERC18DSC	2.7

※ 3軸合成値（手腕振動）は走行ハンドル（作業者の右側）のグリップ把持、エンジン定格速度（ 3600min^{-1} ）、無切断時の値です。

■ 製品寸法表（格納時）

型 式	L (mm)	W (mm)	H (mm)
ERC14DC	950	515	840
ERC16DSC	1000		
ERC18DSC			

■ 製品寸法図



○ ブレード

(エクセン仕様)

○ ダイヤモンドブレード (コンクリートカッター用)

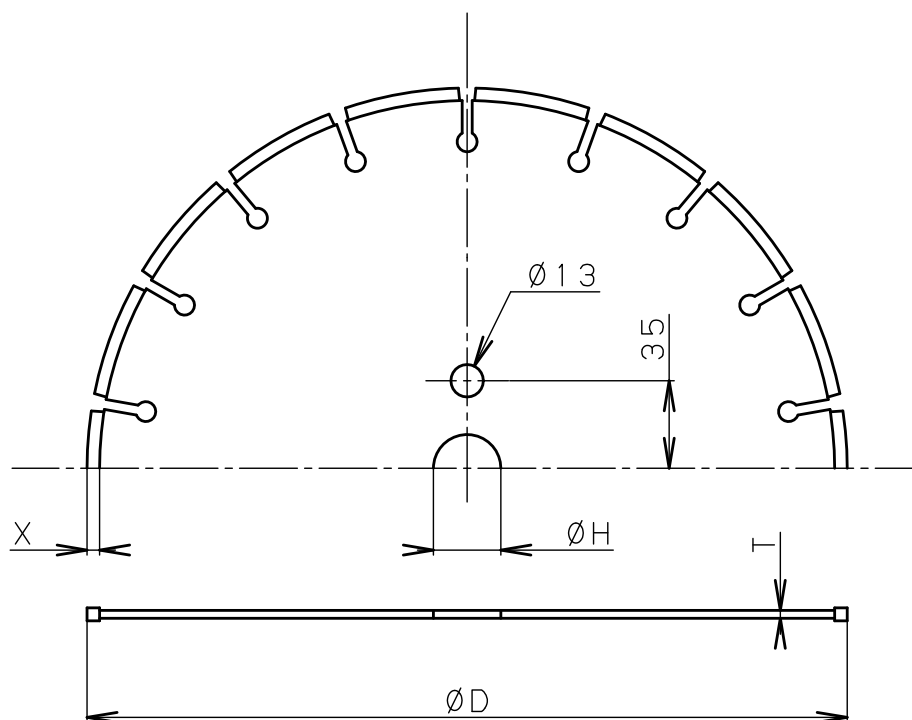
■ P/Cシリーズ (湿式)

Pタイプ: アスファルト・軟質コンクリート用

Cタイプ: 硬質・鉄筋コンクリート、レンガ、軟質石材用

型 式	サイズ (in)	φ D (mm)	T (mm)	X (mm)	φ H (mm)
P 1 2 S 静音タイプ	(1 2)	3 0 6	3 . 2	6 . 0	2 7
P 1 4 S 静音タイプ	(1 4)	3 5 6			
P 1 6	(1 6)	4 1 8			
P 1 8	(1 8)	4 6 9			
C 1 2 0	(1 2)	3 0 6			
C 1 4 0	(1 4)	3 5 6			
C 1 6	(1 6)	4 1 8			
C 1 8	(1 8)	4 6 9			

○ ブレード寸法図



⚠ 使用するダイヤモンドブレードの取扱説明書を熟読してから使用してください。



本社	〒105-0013	東京都港区浜松町 1-17-13	TEL 03-3434-8455	FAX 03-3434-1658
草加工場	〒340-0003	草加市稲荷 5-26-1	TEL 048-931-1111	FAX 048-935-4473

<https://www.exen.co.jp/>